

## 努力事項解説 その2 (特別活動)

「学校教育指導の重点」特別活動の努力事項を解説していきます。今回は、学習指導要領の内容に照らして、以下について考えてみます。(今回は小中学校共通です。)

児童生徒の自発的、自治的な活動を通して、望ましい人間関係を築く態度を育成する観点から、話し合い活動を充実させ、学級活動の活動内容(1)「学級や学校の生活づくり」の内容を十分展開できるようにしましょう。

- 1 活動内容(1)「学級や学校の生活づくり」の内容を十分展開することが求められているのはなぜでしょうか？

なお一層、望ましい人間関係を築く態度を育成する必要があるからです。

中央教育審議会の学習指導要領等の改善についての答申に、

特別活動では、「よりよい人間関係を築く力の重視」、「子どもの自主的、自発的な活動を一層重視」、「自分に自信が持てず、人間関係に不安を感じていたり、好ましい人間関係を築けず社会性の育成が不十分であったりする状況が見られたりすることから、それらにかかわる力を実践を通して高めるための体験活動や生活を改善する話し合い活動を重視」

といった内容が盛り込まれました。(抜粋です。詳しくは※をごらんください。)

かんたんに言うと、この答申は

「人間関係を築く力を育てることや、自主的、自発的な活動や話し合い活動を今までもがんばって行ってきたけれど、十分ではないからもっとがんばりましょう。」

ということだと思います。

では、活動内容(1)で、この答申の言っていることを考えてみます。活動内容(1)の「学級や学校の生活づくり」は、望ましい人間関係を形成することをねらいのひとつとしていますので、学級や学校の生活の中でよりよい人間関係を築く大切な機会です。また、この活動は自発的・自治的な活動といわれています。さらに、この活動は、生徒の話し合い活動を中心に展開されます。

つまり、答申で「もっとがんばりましょう」と言われている内容が、この学級活動(1)「学級や学校の生活づくり」そのものと言えるのです。

だから、学級活動(1)「学校や学級の生活づくり」を十分に展開し、自発的、自治的な話し合い活動を十分に行うことで、望ましい人間関係を築く態度を育成していくことがなお一層求められてるというわけです。



